

授業科目 解剖生理学II

【担当教員名】 川 中 健太郎		対象学年	1	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：G10】 解剖生理学Ⅰでは、解剖生理学Ⅱに引き続いて、身体の構造と機能についての基本的な知識を学習する。栄養生理的な面だけでなく、ヒトの動物的機能、つまり、ヒトが動くことができるしくみや脳における認知機能についても学習する。					
【学習目標・行動目標：SB0】 1) 泌尿器系の構造・働きと仕組み、2) 生殖器系の構造・働きと仕組み、3) 神経・感覚系の構造・働きと仕組み、4) ならびに内分泌系の構造・働きと仕組みを理解して説明できるようになる。特に、恒常性の概念と仕組みについて理解する。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	腎臓の構造				講義、一部ビデオを活用
2	尿細管における再吸収の仕組み				講義、一部ビデオを活用
3	体水分量・塩分量の調節				講義、一部ビデオを活用
4	男性および女性生殖器の構造と働き				講義、一部ビデオを活用
5	性周期とホルモン				講義、一部ビデオを活用
6	妊娠と出産				講義、一部ビデオを活用
7	骨格筋の収縮機構				講義、一部ビデオを活用
8	中枢神経系の構造				講義、一部ビデオを活用
9	中枢神経系の働き				講義、一部ビデオを活用
10	末梢神経系の構造と働き				講義、一部ビデオを活用
11	視覚と聴覚				講義、一部ビデオを活用
12	嗅覚と味覚				講義、一部ビデオを活用
13	内分泌系による血圧調節				講義、一部ビデオを活用
14	内分泌系その他の働き				講義、一部ビデオを活用
15	まとめ				講義、一部ビデオを活用
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		人体の構造と機能		メディカ出版	
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 期末試験と出席状況			【履修上の留意点】 高校時代に”化学” ”生物”を履修していない学生、または、理解が不十分な学生は補習によって”化学”や”生物”を学習して学力を補強しながら授業に臨むこと。		